

## 声明

# 人種差別への非暴力による米国市民の抗議運動の広がり 地球市民として連帯します

2020.6.11 9条地球憲章の会

ミネアポリスで黒人ジョージ・フロイドさんが白人警官の非道な暴力によって殺害されて以来、全米で米国の根深い人種差別への画期的な抗議運動が広がり、さらに全世界に広がっています。

当初、日本では、トランプ大統領の抗議運動を極左テロとみなす強圧的な姿勢と、抗議運動への便乗や攪乱目的と思われる一部の破壊や略奪行為が大きく報道されましたが、コロナ禍の中でも日に日に拡大する抗議運動は白人市民も含めた広範な市民の非暴力による抗議運動であり、地域によっては白人警官たちでさえ抗議行動に片膝をついて敬意と連帯を示していることが、次第に報じられるようになりました。

まさしくこれは、かつて白人支配の暴力と差別の米国に敢然と非暴力で立ちあがり、黒人市民と良心的な白人市民の共同を実現し、公民権運動を歴史的な成功に導いた、あのキング牧師を先頭にした平和と人権のもう一つの米国の輝かしい歴史と伝統を受け継ぐものではないでしょうか。

私たち「9条地球憲章の会」は、第一次大戦の惨禍を踏まえた戦争違法化の国際的経緯とアジア・太平洋戦争における自国の甚大な加害と被害の経験とに学んだ日本国憲法9条の理念に基づき、いっさいの武力と暴力を排し、地球上のすべての人びとが平等で尊厳を持った個人として、持続可能な地球環境の下で、平和に生きる権利を非暴力によって実現することをめざしています。

しかし、米国の黒人差別がかつての黒人奴隷制の負の遺産であるように、日本にもかつての植民地支配の負の遺産として韓国・朝鮮人への根深い差別があります。

また、かつて日本が内国植民地とした沖縄は第二次大戦後は米国の事実上の軍事植民地とされ、今も米軍基地の多くが押しつけられ、沖縄の人びとへの不当な差別は未だに解消されていません。

私たちは今回の米国市民による画期的な運動に深く連帯し、学ぶとともに、世界の国々の市民と共に人種・民族差別へのたたかいをいっそう深めなければなりません。

地球上のすべての人びとが持続可能な地球環境の下で平和に生きる権利を非暴力で実現するために、今こそ地球市民として共に連帯しましょう！

**Black Lives Matter!**  
**Korean Lives Matter!**  
**Okinawan Lives Matter!**  
**All People's Right to Live in Peace and Justice!**

